

滿洲ニ關スル日清條約御批准件 會議筆記

明治三十九年一月六日

正

国立公文書館
利用上の注意

本館は、非公開の席上における発言を記録したものであります。したがって当該発言者の共同著作物と解されますので、引用等発表に際し著作権法上の問題の生ずることのないよう特に御配慮願います。

国立公文書館

分類

配架番号

2 A

15-8

11224

樞密院會議筆記

日滿
清洲
條約
關
ス
ル

明治三十九年一月六日午前十時五十分開議
聖上臨御

出席員

議長

山縣議長

大臣

桂

總理大臣兼
文部大臣

六番

山本海軍大臣

七番

清浦農商務大臣

九番

曾禰大藏大臣 十番

小村外務大臣 十一番

寺内陸軍大臣 十二番

波多野司法大臣 十三番

大浦逵信大臣 十四番

副議長

東久世副議長 十六番

顧問官

福岡顧問官 十九番

田中顧問官 廿一番

細川顧問官 廿三番

大島顧問官 廿六番

九鬼顧問官 廿七番

高崎顧問官 廿八番

杉 顧問官 廿九番

蜂須賀顧問官 三十番

伊東顧問官 卅二番

岩倉顧問官 卅三番

野村顧問官 卅四番

林 顧問官 卅五番

欽席員

皇族

嘉仁親王

一番

貞愛親王

二番

威仁親王

三番

載仁親王

四番

依仁親王

五番

顧問官

松方顧問官

十七番

樺山顧問官

十八番

佐々木顧問官

二十番

海江田顧問官

廿二番

河瀬顧問官

廿四番

中牟田顧問官

廿五番

高島顧問官

廿一番

黒田顧問官

廿六番

西顧問官

廿七番

青木顧問官

廿八番

税所顧問官

廿九番

委員

一木法制局長官

珍田外務次官

山座外務省政務局長

落合公使館書記官

報告委員

都筑書記官長

書記官

穗積書記官

州
密

河村書記官

柴田書記官

議長(山縣)

滿洲ニ關スル日清條約御批准ノ件

並附屬協約ノ會議ヲ開ク之ハ條約及協約ナ

レハ別ニ御意見ナクハ讀會ヲ省略シタシ御

異議ナシト認メ讀會ヲ省略ス

報告員(都筑)

本條約及附屬協約ハ日露講和條

約第五條及第六條ニ依リ露國政府カ帝國政

府ニ為シタル讓渡ニ對シ清國政府カ承諾ヲ

與ヘ附屬協約ハ滿洲ニ於テ日清兩國ノ關係

ヲ有スル其、他ノ事故ヲ決定セムトスル
、ニシテ其ノ條項孰レモ妥當ト認ムルニ
リ可決セラレ然ルヘシト思料ス

河村書記官朗讀

滿洲ニ關スル日清條約
並附屬協約

十一番(小村)

日露講和條約ノ結果トシテ並ニ

滿洲問題ニ關シ清國政府ト協議ヲ要スルモ

、アリ其ノ主要ナルモノハ和約ニ依リテ得

タル利權即租借權及長春以南ノ鐵道讓與ニ

對シ清國ノ承諾ヲ求ムルコトナリ是レ我々

求、主腦ナリ之ニ附帶シテ將來滿洲ニ於テ

我々ノ經營ヲ要スル事項ナリ其ノ主ナルモノ

ハ第一、安東縣ヨリ奉天ニ達スル奉天ヨリ新

民屯ニ達スル長春ヨリ吉林ニ達スル鐵道ノ

敷設第二、撫順煙臺ノ炭坑第三、鴨綠江右岸森

林截伐第四、滿洲開放ノ實ヲ舉ケルコトナリ

要求ノ主腦ニ對シテハ無條件ニテ清國ノ承

諾ヲ得タリ故ニ露國カ清國ヨリ得タルト同

様ノ權利利益ヲ得ルコトナレリ此ノ外ニ

附帶セル安東縣奉天間ノ鐵道ハ十八年間

軍用鐵道ヲ改良シテ維持經營スルコトナリ

リ奉天新民屯間ノ鐵道ハ條約ニ明文ナキ
之ハ清國政府ノ名義ニテ敷設シ日本ニテ
權ヲ握ルコトトナレリ之ハ秘密約束トシテ
會議錄ニ認メアリ長春吉林間モ右ト同様ニ
清國政府ニテ敷設シ實權ハ我ニ於テ握ルコ
トトシ是レ亦秘密約束トシテ會議錄ニ明記
セリ其ノ他鐵道ニ關シテ尚ホ二ノ秘密約束
アリテ清國ハ吉林方面ニ於テ日本以外ノ外
國又ハ外國人ニ鐵道敷設ヲ許サズ又日本以
外ノ外國又ハ外國人ト共同シテ敷設セザル

コト又一ノ旅順長春間鐵道ト並行スル幹線
ヲ敷設セズ又南滿洲鐵道ノ利益ヲ害スル支
線ヲ敷設セズトノ二條アリ炭坑ノコトハ清
國ニテハ撫順煙臺ノ炭坑ハ露國ノ東清鐵道
ニ附屬スルモノト認メ日本ニ讓リタリ之ハ
本條約ノ第一條ニ籠リ居レハ別ニ規定ヲ設
クル必要ナシ鴨綠江森林ハ日清兩國人ノ共
同事業トシテ經營スルコトニ決セリ滿洲開
放ノ實ヲ舉ケルコトハ滿洲ノ北部南部ニ於
テ從來ノ外十六箇所ノ都市ヲ開クコトニ協

定セリ今回ノ談判ニ於テハ日露戦争ノ結果
日本カ滿洲ニ於テ占メタル位置ヲ益固クシ
同時ニ日清間ノ親密ヲ一層鞏固ニスル方針
ヲ執リタリ條約ノ説明ハ概略此ノ如シ
議長(山縣) 別ニ御意見ナクハ採決ス同意ノ諸
君ハ起立

(全會一致)

議長(山縣) 全會一致ト認ム御批准案ヲ朗讀セ
シム

河村書記官朗讀

御批准案

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本
國皇帝(御名)此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス
朕明治三十八年十二月二十二日清國北京ニ於
テ帝國全權委員及清國全權委員ノ記名調印シ
タル滿洲ニ關スル條約ノ各條目ヲ親シク閱覽
點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ間然スル所ナ
キヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス
神武天皇即位紀元二千五百六十六年明治三十
九年 月 日東京官城ニ於テ親ヲ名ヲ署シ

璽ヲ鈴セシム

御名 國璽

外務大臣

議長(山縣) 御異存ナクハ上奏ノ取計ヒヲ為ス

ハシ

(午前十一時十五分開會)

樞密院議長侯爵山縣有朋

書記官長

書記官

河村金五郎

柴田駒三郎

大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ハ均シク明治三十八年九月五日即光緒三十四年八月七日調印セラレタル日露兩國講和條約ヨリ生スル共同關係ノ事項ヲ協定セムコトヲ欲シ右ノ目的ヲ以テ條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲メニ大日本國皇帝陛下ハ特派全權大使外務大臣從三位勳一等男爵小村壽太郎及特命全權公使從四位勳二等内田康哉ヲ大清國皇帝陛下ハ欽差全權大臣軍機大臣總理外務部事務和碩慶親王欽差全權大臣軍機大臣外務部尙書會辦大臣瞿鴻禨及欽差全權大臣北洋大臣太子少保直隸總督袁世凱ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ條項ヲ協議決定セリ

第一條

清國政府ハ露國カ日露講和條約第五條及第六條ニヨリ日本國ニ對シテ爲シタル一切ノ讓渡ヲ承諾ス

第二條

日本國政府ハ清露兩國間ニ締結セラレタル租借地並鐵道敷設ニ關スル原條約ニ照シ努メテ遵行スヘキコトヲ承諾ス將來何等案件ノ生シタル場合ニハ隨時清國政府ト協議ノ上之ヲ定ムヘシ

第三條

本條約ハ調印ノ日ヨリ効力ヲ生スヘク且大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ニ於テ之

ヲ批准セラルヘシ該批准書ハ本條約調印ノ日ヨリ二箇月以内ニ成ルヘク速ニ北京ニ於テ之ヲ交換スヘシ
右證據トシテ兩國全權委員ハ日本文及漢文ヲ以テ作ラレタル各二通ノ本條約ニ署名調印スルモノナリ

明治三十八年十二月二十二日即光緒三十一年十一月二十六日北京ニ於テ之ヲ作ル

大日本帝國特派全權大使外務大臣從三位勳一等 男爵小村壽太郎(記名)印

大日本帝國特命全權公使從四位勳二等 內田 康哉(記名)印

大清國欽差全權大臣軍機大臣總理外務部事務 慶 親 王(記名)印

大清國欽差全權大臣軍機大臣外務部尙書會辦大臣 瞿 鴻 禨(記名)印

大清國欽差全權大臣北洋大臣太子少保直隸總督 袁 世 凱(記名)印

日清兩國政府ハ滿洲ニ於テ双方共ニ關係ヲ有スル他ノ事項ヲ決定シ以テ遵守ニ便ナラシムル爲メ左ノ條項ヲ協定セリ

第一條

清國政府ハ日露軍隊撤退ノ後成ルヘク速ニ外國人ノ居住及貿易ノ爲メ自ラ進ミテ滿洲ニ於ケル左ノ都市ヲ開クヘキコトヲ約ス

盛京省 鳳凰城 遼陽 新民屯 鐵嶺 通江子 法庫門

吉林省 長春(寬城子) 吉林 哈爾濱 寧古塔 琿春 三姓

黑龍江省 齊齊哈爾 海拉爾 愛琿 滿洲里

第二條

清國政府ハ滿洲ニ於ケル日露兩國軍隊並ニ鐵道守備兵ノ成ルヘク速ニ撤退セラレムコトヲ切望スル旨ヲ言明シタルニ因リ日本國政府ハ清國政府ノ希望ニ應セムコトヲ欲シ若シ露國ニ於テ其ノ鐵道守備兵ノ撤退ヲ承諾スルカ或ハ清露兩國間ニ別ニ適當ノ方法ヲ協定シタル時ハ日本國政府モ同様ニ照辦スヘキコトヲ承諾ス若シ滿洲地方平靖ニ歸シ外國人ノ生命財產ヲ清國自ラ完全ニ保護シ得ルニ至リタル時ハ日本國モ亦露國ト同時ニ鐵道守備兵ヲ撤退スヘシ

第三條

日本國政府ハ滿洲ニ於テ撤兵ヲ了シタル地方ハ直チニ之ヲ清國政府ニ通知スヘク清國

政府ハ日露講和條約追加約款ニ規定セル撤兵期限内ト雖既ニ上記ノ如ク撤兵完了ノ通知ヲ得タル各地方ニハ自ラ其ノ安寧秩序ヲ維持スル爲メ必要ノ軍隊ヲ派遣スルコトヲ得ルモノトス日本國軍隊ノ未タ撤退セサル地方ニ於テ若シ土匪ノ村落ヲ擾害スルコトアル時ハ清國地方官モ亦相當ノ兵隊ヲ派遣シ之ヲ勤捕スルコトヲ得但シ日本國軍隊駐屯地界ヨリ二十清里以内ニ進入スルコトヲ得サルモノトス

第四條

日本國政府ハ軍事上ノ必要ニヨリ滿洲ニ於テ占領又ハ收用セル清國公私財産ハ撤兵ノ際悉ク清國官民ニ還附シ又不用ニ歸スルモノハ撤兵前ト雖之ヲ還附スルコトヲ承諾ス

第五條

清國政府ハ滿洲ニ於ケル日本軍戰死者ノ墳墓及忠魂碑所在地ヲ完全ニ保護スル爲メ總テ必要ノ處置ヲ執ルヘキコトヲ約ス

第六條

清國政府ハ安東縣奉天間ニ敷設セル軍用鐵道ヲ日本國政府ニ於テ各國商工業ノ貨物運搬用ニ改メ引續キ經營スルコトヲ承諾ス該鐵道ハ改良工事完成ノ日ヨリ起算シ(但シ軍隊送還ノ爲メ遲延スヘキ期間十二箇月ヲ除キ二箇年ヲ以テ改良工事完成ノ期限トス)十五箇年ヲ以テ期限ト爲シ即光緒四十九年ニ至リテ止ム右期限ニ至ラハ双方ニ於テ他國ノ評價人一名ヲ選ミ該鐵道ノ各物件ヲ評價セシメテ清國ニ賣渡スヘシ其ノ賣渡前ニ在ク又該鐵道改良ノ方法未定者ハ日本國政府ノ經理者ニ於テ該鐵道ノ評價人ニ選ミ其ノ賣渡前ニ在實ニ商議スヘキモノトス該鐵道ニ關スル事務ハ東清鐵道條約ニ準シ清國政府ヨリ委員ヲ派シ查察經理セシムヘク又該鐵道ニ由リ清國公私貨物ヲ運搬スル運賃ニ關シテハ別ニ詳細ナル規程ヲ設クヘキモノトス

第七條

日清兩國政府ハ交通及運輸ヲ増進シ且之ヲ便易ナラシムルノ目的ヲ以テ南滿洲鐵道ト清國各鐵道トノ接續業務ヲ規定セムカ爲メ成ルヘク速ニ別約ヲ締結スヘシ

第八條

清國政府ハ南滿洲鐵道ニ要スル諸般ノ材料ニ對シ各種ノ税金及釐金ヲ免スヘキコトヲ承諾ス

第九條

盛京省内ニ於テ既ニ通商場ヲ開設シタル營口及通商場トナスヘク約定シアルモ未タ開カレサル安東縣並奉天府各地方ニ於テ日本居留地ヲ劃定スル方法ハ日清兩國官吏ニ於テ別ニ協議決定スヘシ

第十條

清國政府ハ日清合同材木會社ヲ設立シ鴨綠江右岸地方ニ於テ森林截伐ニ從事スルコト其ノ地區ノ廣狹年限ノ長短及會社設立ノ方法並合同經營ニ關スル一切ノ章程ハ別ニ詳細ナル約束ヲ取極ムヘキコトヲ承諾ス日清兩國株主ノ利權ハ均等分配ヲ期スヘシ

第十一條

滿韓國境貿易ニ關シテハ相互ニ最惠國ノ待遇ヲ與フヘキモノトス

第十二條

日清兩國政府ハ本日調印シタル條約及附屬協約ノ各條ニ記載セル一切ノ事項ニ關シ相互ニ最優ノ待遇ヲ與フルコトヲ承諾ス

本協約ハ調印ノ日ヨリ効力ヲ生スヘク且本日調印ノ條約批准セラレタル時ハ本協約モ亦同時ニ批准セラレタルモノト看做スヘシ

右證據トシテ下名ハ各其本國政府ヨリ相當ノ委任ヲ受ケ日本文及漢文ヲ以テ作ラレタル各二通ノ本協約ニ記名調印スルモノナリ

明治三十八年十二月二十二日即光緒三十一年十一月二十六日北京ニ於テ之ヲ作ル

大日本帝國特派全權大使外務大臣從三位勳一等 男爵小村壽太郎(記名)印

大日本帝國特命全權公使從四位勳二等 內田 康哉(記名)印

大清國欽差全權大臣軍機大臣總理外務部事務 慶 親 王(記名)印

大清國欽差全權大臣軍機大臣外務部尙書會辦大臣 瞿 鴻 禨(記名)印

大清國欽差全權大臣北洋大臣太子少保直隸總督 袁 世 凱(記名)印